

事前意見等の整理

NO	箇所	ご意見等	対応案・回答
A 1	まえがき 第4段落・2行目	「平成29年中の・・・目標値を上回っていましたが、」の箇所 上回るは達成・到達したように受け取られるため、「超える」のような表現の方がよいのでは。	修正します。 「上回って」→「超えて」
A 2	P1 1. 基本理念 第2段落・2行目	P15に高校生の記載はあるが、自転車通学の高校生が多いため、「子ども、高齢者、障がい者等市民全て」に高校生を追記してはどうか。（市民全てに包括されるが）	「子ども」の注釈を削除します。 ここでは、広義の「子ども」として、18歳未満の者とします。
A 3	P2 (1)道路交通安全の目標 P10 (1)目標	年間重傷者数について 県計画と整合させていると理解するが、前計画の死傷者数から変更した理由は。	第11次交通安全基本計画（内閣府）及び第11次滋賀県交通安全計画で、前計画の死傷者数から重傷者数に変更され、それを受け変更しています。 死者数の減少を最優先としつつ、重傷者が発生する事故防止への取組が死者数の減少にもつながることから、命に関わり優先度が高い重傷者を目標としています。
A 4	P2 (4)新型コロナウイルス感染症の影響の注視 P10 (2)目標値の根拠 最終段落・3行目	新型コロナウイルス感染症の影響として、交通量は増加か減少か。 (外出を控えて交通量が減るのか、密になるのを避けて車で移動するため増えるのか。)	鉄道交通については、乗客数が減少しています。 道路交通については、外出を控えた減少と、公共交通を避け自家用車での移動に変更したことによる増加の両方があると思われます。 公的な統計が出ていないため、全体的なことは分かりませんが、個々の交通行動は変わってきており、現在もさらに変わりつつありますので、交通事故発生状況を見ながら、臨機に対策を講じていく必要があると考えています。

NO	箇所	ご意見等	対応案・回答
B 1	P4 第1節 道路交通事故のない 甲賀市を目指して 3～4行目	「子育てを応援する社会の実現等」について、交通安全の側面があるのは理解するが、誇大すぎないか。	ベビーカーでの通行や散歩など、子どもが歩道を通ったり車道を横断することに対し、施設整備や運転手の意識など社会全体で子どもを守る必要があります。 交通安全についても、子育てを応援する社会を実現するための一助になると考えています。
B 2	P11、18、19 円グラフ	平成28年から令和2年の、合計なのか平均なのか。	追記します。 「（平成28年～令和2年）」→「（平成28年～令和2年・合計）」
B 3	P13 ②道路管理者による対策 第1段落・4～5行目	「ゾーン対策を実施」を「ゾーン対策を推進」に修正。	修正します。 「ゾーン対策を実施」→「ゾーン対策を推進」
B 4	P13 ③通学路等における交通安全の確保 第2段落	「路面のカラー舗装」を「路肩のカラー舗装」に修正。 県計画でも路肩となっており、通学路では路肩にグリーンベルトを行っているため。	修正します。 「路面のカラー舗装」→「路肩のカラー舗装」
B 5	P13 ③通学路等における交通安全の確保 第2段落	防護柵に「ボラード」を追加。 通学路でもすでに設置している箇所がある。	追記します。 「防護柵の設置」→「防護柵・車止め等の設置」
B 6	P13 ③通学路等における交通安全の確保 第2段落	「歩道等と車道を分離するための対策を実施します。」の部分。「実施」を「推進」に修正。	修正します。 「実施します」→「推進します」
B 7	P14 ④工事発注者による対策	「④工事発注者による対策」を「⑤工事発注者による対策」に修正。	修正します。 「④」→「⑤」
B 8	P15 (1)段階的・体系的な交通安全教育の推進	①幼児、②小学生、③中学生の教職員について ①は「教職員」に保育士を追記。 ③は教職員の記載がない。	①修正します。 「教職員」→「教職員等」 ③最後に追記します。 「また、教職員においては、交通安全教育を一層推進するほか、心肺蘇生法の実技講習会等を行います。」

NO	箇所	ご意見等	対応案・回答
B 9	P18 下段表	出典データには無いと理解するが、全国や県に比べてどうなのか把握しているか。	着用率については、表のとおり交通事故の場合のものしか統計資料がありません。交通事故での死傷者の着用率が市96%・県94%であることから、大きな隔たりはないものと考えています。なお、チャイルドシートについては、対象数が少ないため割愛しています。
B 10	P19 (2)バスに関する安全対策	市内にはコミュニティバス運行が大部分を占めていることから「路線バス等」を「コミュニティバス等」に修正。	修正します。 「路線バス等」→「コミュニティバス等」
B 11	P20 (1)救助・緊急体制の整備	多数の負傷者が発生するリスクが高いと考えられるバス・鉄道事故において、居合わせた人が遅滞なく自動体外式除細動器（AED）を使用できるようコミュニティバス等に配備するなどハード面の整備も必要。	追記します。 「普及啓発を行います。」→「普及啓発を行うとともに、AED配備の充実を図ります。」

NO	箇所	ご意見等	対応案・回答
C 1	P22 1. 鉄道事故の現状 第3段落	令和2年の県内鉄道事故の発生件数と死者数について、県計画（P66）と整合させる。	修正します。 「2件の運転事故が発生し、死者数は1人」→「3件の運転事故が発生し、死者数は2人」
C 2	P22 (2)目標の考え方 第1段落	「死傷者を出さない対策」の表現で、具体的な対策内容を記述すべきでは。 「駅ホームでの列車との接触を避ける対策」などの追記もしくは変更。	修正します。 「ホームでの接触事故を含む鉄道事故で、死傷者を出さない対策が必要」→「ホームでの列車との接触を避ける対策等が必要」
C 3	P23 タイトル	もくじと不一致。	修正します。 「鉄道の交通安全」→「鉄道交通の安全」
D 1	P25 1. 踏切事故の現状 第2段落	令和2年の県内踏切事故の発生件数と死傷者数について、県計画（P73）と整合させる。	修正します。 「発生件数は1件、死傷者数は無く」→「発生件数は2件、死傷者数は1人で」
D 2	P25 1. 踏切事故の現状 第2段落・2行目	同行に「による」が重複のため、表現の改善。	修正します。 「改良等による安全対策の積極的な推進によるところが大きい」→「改良等による安全対策の積極的な推進が大きな要因」
D 3	P26 (1)踏切道の構造の改良促進 第1段落・2行目	「構造への改良」の表現で、具体的な表現として「拡幅や歩道車道の分離など」の追記。	追記します。 「鉄道事業者と連携して事故防止効果の高い構造への改良」→「鉄道事業者と連携して、拡幅や歩道と車道を分離する等、事故防止効果の高い構造への改良」

A：まえがき～基本理念等、B：第1章 道路交通の安全、C：第2章 鉄道交通の安全、D：第3章 踏切道における交通の安全